

獨協医科大学

越谷病院だより

2015.8
28号



● 主な内容 ●

獨協医科大学公開講座のお知らせ／車椅子の寄贈を受ける	2
リプロダクションセンターの開設について	3
病院への手紙	4~5
青葉まつり（東日本大震災復興支援イベント）報告	6
エコキャップ回収活動報告	6
当院における夏季省エネルギー推進運動の実施について	6
越谷市長賞とったどー!!	7

獨協医科大学公開講座のお知らせ

今年度も公開講座を開催することとなり、越谷病院で開催される講座は以下のとおりとなります。

平成3年よりスタートした公開講座は今年で24年目を迎えることができました。地域の皆様にご満足いただけるよう充実した講座にしたいと考えておりますので、皆さま是非お誘いあわせの上、多数ご参加ください。

メインテーマ 「更なる地域医療を目指してⅡ」

日程・講師名

①日 時：10月3日（土）14：00～15：30

テーマ：卵巣の働きと病気

講師：産科婦人科 教授 高倉 聡

②日 時：10月10日（土）14：00～15：30

テーマ：加齢黄斑変性になったら

講師：眼科 教授 町田 繁 樹

③日 時：10月24日（土）14：00～15：30

テーマ：心臓弁膜症ってどんな病気？

講師：心臓血管外科・呼吸器外科 教授 高野 弘 志



1. 会場：獨協医科大学越谷病院 高架下会議室
2. 受講定員：80名（申込順）
3. 申込期間：9月1日（火）～（土日祝日除く）
※午前9時～午後4時30分の間にテキスト代1,500円（全3回分）を添えて庶務課まで
4. 問合せ先：事務部庶務課
TEL 048-965-9137

車椅子の寄贈受ける

去る平成27年5月3日、阿波おどり金四郎連（代表 大澤せつ子様）より当院の医療への取り組みに対し深いご理解をいただき、車椅子2台を寄贈いただきました。いただいた車椅子は外来患者様にご使用いただくよう、正面入口付近に設置しております。

阿波おどり金四郎連は、草加市に母体を置き、越谷市などの周辺地域の皆さまで構成され、毎年、南越谷阿波おどりに参加している団体です。代表の大澤様をはじめ、金四郎連の皆様にはこの場をお借りして御礼申し上げます。



リプロダクションセンターの開設について

越谷病院では、院内に生殖医療を提供するリプロダクションセンターを開設、本年7月1日より診療を開始しました。これにより不妊診療としての理想的な形であるご夫婦（カップル）揃っての受診と治療が可能となりました。不妊治療はカップルによる治療が基本です。しかし実際には、女性の通院先である産婦人科で男性の精液検査を行い、そこで精子の数や運動率などに問題が見つかったとしても、詳しい検査や治療をすることなく、人工授精や顕微授精へと進むのが現状です。当センターでは、男性不妊は泌尿器科医、女性不妊には産婦人科医が、それぞれ検査・治療にあたり、ご夫婦に適した治療をご提案します。



○男性診療部門

当センターでは男性不妊の生殖専門医*による男性不妊症の最先端の研究・診断・治療を行っており、精巣から手術用顕微鏡下で精子を取り出す「MD-TESE（顕微鏡下精巣精子採取法）」という治療法では、国内有数の症例数を持っています。また、染色体異常のクラインフェルター症候群の患者に対するMD-TESEの症例数では世界最多の実績があります。センター内には男性不妊専用の個室診察室や採精室を設けました。また、受診日も土曜日を含めて週5日と増設しました。診察も専門施設ならではのカウンセリング、超音波検査、精密な精液検査やホルモン検査、染色体検査、遺伝子についての精密検査も行います。

*日本生殖医学会が認定する男性不妊の生殖専門医は全国に47名（2015年5月現在）。6組に1組のカップルが不妊といわれる現在、専門医が極めて少ないのが現状です。

○女性診療部門

一般不妊症検査として、ホルモン値などの血液検査、超音波検査、子宮卵管造影などの検査を必要に応じて行います。男性因子も含め特に問題のない場合は、タイミング療法から始めて、人工授精へステップアップします。また男性不妊のある場合は、ご夫婦の検査結果を踏まえたうえで、ご希望をおうかがいしながら個別のプランをたて、高度生殖補助医療を含めた最善・最速の治療をご提案します。大学病院では極めて稀な取り組みです。TESEに対しての顕微授精などの高度生殖補助医療は9月から実施予定です。子宮筋腫や卵巣嚢腫合併や不育症についても当院産婦人科のサポートのもと専門的な診断や治療ができるような体制となりました。



○がん治療の前に凍結保存

がん患者様の妊孕性温存に積極的に取り組みます。がん治療に入る前に、精子・卵子、また受精卵を凍結保存するもので、血液がん、精巣腫瘍、また将来的には乳がん患者様が、治療後にお子さんが授かるように手助けをします。



これまでは当院泌尿器科での週1回の診察にもかかわらず、年間約2000名の男性不妊患者さんを診察してきました。土曜日や仕事帰りの平日夕方も診察する当センター開設により、数年後には1万人を超える新規患者様が見込まれます。これにより生殖医療の新しい診断や治療法の研究開発が期待できます。「男性不妊の最後の砦」ではなく、「男性不妊と言われたら、すぐここへ」。大学病院ならではの医療サポートと柔軟な診療体制で、我が子を授かるサポートをいたします。

病院への手紙にお答えいたします

～当院の各部署に設置してあります、ご意見箱に寄せられる
患者さまのご意見・ご要望等「病院への手紙」に対する回答～

* トイレの施設利用について

〈入院患者 65 歳 女性〉

トイレの手洗いの水が冷たいのでお湯が出るようになるといい。またトイレ、汚物室のわずかな段差を改善した方がいい。

お答えいたします

一部分のトイレ等にはお湯が出る洗面台を設けておりますが、今後、適所に設備を設ける様検討致します。また、段差の改善については新棟、既存棟リニューアルに合わせバリアフリー化を進めて参ります。

* こころの診療科の設置場所について

〈35 歳 男性〉

こころの診療科の場所について、他の科と引き離して隔離されている事に違和感があるので、元の場所（皮膚科の横）に戻すべきである。またモニターでの診察番号表示もしてほしい。

お答えいたします

当科の場所につきましては、当科の患者数増加に伴い、待合室を独立させ、診察室を増加させる必要が生じたため、平成 26 年 4 月をもって現在の場所に移ったという事情がございます。それ以前の皮膚科と隣接した場所では、残念ながら患者数増加に対応しきれません。諸事情ご賢察の上、なにとぞご理解を賜りたく存じます。

モニターでの診察番号表示につきましては、現在、中待合室のみとなっております。今後、廊下への設置も検討させていただきます。

* 入院食について

〈入院患者 78 歳 男性〉

食事のデザートは冷えた状態です出して頂ければ非常に良いと思います。

お答えいたします

この度ご指摘頂きました食事の温度管理についてですが、盛り付け、配膳係りの担当者も極力配膳直前に、盛り付けをしておりますが、準備する食数が多い為、盛り付けから、配膳までお時間がかかってしまった事案があったのかもしれませんが。今後も、適温給食に対しまして温度管理には十分に注意してまいりたいと思います。

* 外来の待ち時間について

〈60 歳女性 同様意見 2 件〉

予約があっても平気で 2 ～ 3 時間待たされます。

お答えいたします

患者さまの数が大変多くなってきており、午前中みの外来枠では対応が困難になってきているのが実情で、患者さまには長くお待ちいただく場合があること、大変申し訳ございません。システムの見直しを都度検討しております。予約を取る際に各診療科のドクターが個別に予約時刻を調整することで待ち行列が改善できるのではないかと考えております。

病院への手紙について

患者さまから寄せられる「病院への手紙」につきまして、病院長をはじめとする当院幹部役職者が目を通した上で、該当部署に回答及び今後の対応などを報告させています。

また、月 1 回開催している医療サービス委員会において改善案の計画・立案を行っておりその中で改善できるものは早急に改善し、検討を要するものは少しでも患者様のご要望にお応えできるよう日々努力しております。

この「病院への手紙」については、性格上そのほとんどが匿名であることから、該当部署から直接ご本人に回答することはできませんが、皆さまからのご意見を当院の貴重な財産として真摯に受け止め、より良い病院づくりの一助にしたいと考えております。

なお、皆さまからのご意見、そしてその回答については、この病院だよりを通じて一部ご紹介させていただきますが、それ以外のものにつきましても、現状において可能な限り然るべき対応を行っていることをご理解賜りたいと思います。

青葉まつり（東日本大震災復興支援イベント）報告

去る、5月22日・23日の2日間に亘り、東日本大震災復興支援を目的とし「青葉まつり」を開催いたしました。両日も晴天に恵まれ、多くの方々にご参加いただき盛況のうちに終了いたしました。

なお、東日本大震災チャリティーイベントとし、例年同様に収益の全てを義援金として寄付させていただくこととなり、同時に参加者から義援金の募集も行ったところ以下のとおりとなりました。

◇義援金	40,450 円
◇青葉祭り収益	47,803 円
合計	88,253 円

皆様からお預かりした義援金並びに収益（88,253 円）につきましては、日本赤十字社を通じて寄付させていただきました。

改めまして、皆様のご協力・善意に心より感謝申し上げます。

エコキャップ回収活動報告

当院では社会福祉及び環境保全に貢献することを目的として、平成 24 年 9 月から、院内で消費されたペットボトルのキャップを NPO 法人「キャップの貯金箱推進ネットワーク」を通じて分別・回収し、そのリサイクルによる売却益の中から発展途上国へワクチンや医療物資等を送る「エコキャップ回収活動」を開始しておりますが、直近のご報告として平成 26 年 11 月～平成 27 年 2 月分の回収状況及びワクチンへの換算は下記のとおりとなりましたのでご報告致します。

《平成 26 年 11 月～平成 27 年 2 月》

重量 25.80kg 個数 11,094 個 ポリオワクチン（小児麻痺） 12.9 人分

キャップの回収BOXについては、中央棟 1 階売店前など計 2 箇所の自動販売機脇に設置し、教職員並びに患者様等、来院者の方々に協力を呼び掛けております。

私たちでも困っている人たちのために出来ることがあるという思いで、より多くのキャップを集めていきたいと考えておりますので、引き続き皆様のご協力を宜しく申し上げます。

当院における夏季省エネルギー推進運動の実施について

当院では、政府が推進する「地球温暖化防止及び省エネルギー」の実施に加え、震災以降の節電に伴い、院内の設定温度を 28 度としております。

また、教職員においては、5月1日から10月31日までクールビズ（服装の軽装化）などを実施しています。

ご来院いただく皆様にはご理解の程よろしく願いいたします。

越谷市長賞とったぞー!!

獨医連 連長 鈴木 伸志

獨医連は獨協医科大学越谷病院の職員とその家族の連です。病院の様々な部署の方が参加するため、職種の枠を超えた交流を深める格好の場となり、業務の円滑化にも役立っています。ここ数年では続けて参加される方も多く、年々活気を帯びている状況です。では、なぜ続けて参加する人が増えているのでしょうか。最初は上司に無理矢理参加させられたのかもしれませんが、1回は記念にやってみようという人もいます。きっとその1回で阿波踊りに魅了されるのだと思います。踊り手が微笑めば観客も微笑む。踊り手が疲れていると感じると観客は拍手や「頑張っ」の声援を送る。そして、踊り手はその声援に応え懸命に踊る。それが阿波踊りです。また、獨医連は他の連では味わえない魅力があります。患者さまに自分たちの踊りや鳴り物を披露出来るからです。私個人としては南越谷の踊り会場で踊るよりも、病院の患者さまの前で踊れることの方がうれしくもあり、誇りでもあります。お祭り当日、入院中の患者さまは見に行けません。そんな患者さまの前で踊りながら出発する時が一番の幸せです。多分、他の連員たちも同じ気持ちだと思います。いつも接している患者さまに自分たちの踊りや鳴り物を披露し、少しでも元気や勇気を与えられたらと思っています。



南越谷阿波踊りも今年で31回目となり、来場者も70万人を超える大きなお祭りに成長しました。昨年の30回記念大会では徳島市長賞が設けられ、地元のPO連が選ばれました。今年は徳島市長賞に加え越谷市長賞が新設され、栄えある初代越谷市長賞として獨医連が選ばれました。職員や子供たちの活気ある、そして見ていて楽しくなる踊りが評価されたのではないかと思います。

最後になりましたが例年、大学をはじめ、病院関係者、患者さま等、たくさんの方々から励ましのお言葉、協賛等の援助をいただいています。また、お手伝い等、かげで獨医連を支えて下さる方も多数いらっしゃいます。みなさんのお力添え無くして獨医連は成り立ちません。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

さあ、獨医連まだまだ行くよ～「やっとなー、やっとなー、やっとなー！」



